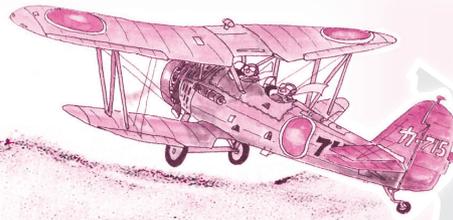


予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関するお話しや写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。

平 成21年、新しい年の幕
開けです。古来より日
本には、新年になると「年神
様」が新たな魂を授けてくれ
るという信仰があります。こ
の神様に供えるのが「鏡餅」で、
それをおすそ分けしてもらい、
新たな一年を頑張る元気をい
ただくのが「お年玉」です。ま
た「年」には「稲の実り」とい
う意味もあるそうです。生ま
れ変わったような新しい気持
ちで、稲が芽を出しすくすく
と育つように、一日一日を大
切に積み重ねていきたいと思
う今日このごろ、皆さんはい
かがお過ごしでしょうか。

● **時をつなぐ言葉**
11月から12月初旬にかけ
て、8人の戦争体験者にイン
タビュー撮影をおこないまし
た。これは戦時を生きた人の
貴重なお話を記録し、平成22
年2月開館予定の予科練平和
記念館で永く保存するととも
に、多くの人に見ていただい
てその記憶を共有していこう
というものです。

今回お話をうかがったの
は、元予科練習生（海軍飛行
予科練習生・海軍の少年航空
兵のこと）で土浦海軍航空隊

（現陸上自衛隊武器学校一帯）
にて訓練を受けた2人、土浦
海軍航空隊に初の看護婦とし
て赴任し、昭和20（1945）
年6月10日、航空隊を目標と
した大規模な空襲を体験した
4人、潜水服を着て水中から
攻撃する特別攻撃隊「伏龍隊」
の訓練を受けた人、そして日
本統治下の台湾で予科練習生
に選ばれて来日、終戦を土浦
海軍航空隊で迎えた台湾の人
です。奥さまと二人で来日し
た劉連輝さんは、おおらか
な笑顔とあたたかい人柄で、
茶目っ気のあるやさしいおじ
いさんという感じでしたが、
どこかにまだ少年の心を残し
ているような人でした。流
暢な日本語でつむぎだされ
るたくさんのお話の中には、
時折胸の痛くなるようなエピソードもありました。今も奥
さまとの会話は大部分が日本
語だということをうかがった



▲（写真右から）榎木さん、金子さん、劉連輝さんと奥さま

ときには、近現代台湾の複雑
な歴史を思い、撮影の途中で
したが涙が出そうになってし
まいました。また、土浦海軍
航空隊で看護婦として勤務し
ていた4人は、看護婦養成所
の同期生で60年以上もお付き
合いが続いているそうです。
インタビュー終了後は筑波山
の旅館にて旧交を温められた
うえで、困難な時代に育まれ
た縁は強いのだなとあらため
て思いました。

を記録したインタビュー撮影
ですが、来年度も続けていく
予定です。お話くださる人は
それぞれに戦争で大変な思い
をなさり、計り知れないご苦
労もあったことと思います。
その記憶と真摯に向き合っ
て伝えてくださる言葉は、私
ちばかりではなく、未来に生
きる人たちにも大きな「お年
玉」となることでしよう。私
も人生の先輩方の言葉に照ら
されて、心の稲が少し育った
ような気がしました。

◆ 最近のニュース ◆

■ 10月22日、霞ヶ浦平和記
念公園（廻戸地区）内におい
て、予科練平和記念館の安
全祈願祭が執り行われまし
た。お天気にもめぐまれて、
青空の下町長、町議会議長
ほか関係者が参列して工事
の安全を祈願しました。

■ 11月12日に第2回予科練
歴史遺産保存委員会が開催
されました。この委員会は
町長を委員長とし、副町長、
教育長、議員、阿見町関連
団体長、武器学校長、（財）
海原会関係者が集まって、
予科練平和記念館について
話し合うものです。議事録
は阿見町ホームページ内予
科練平和記念館整備推進室

のページでご覧いただけま
す。

■ 同ページにて、『予科練平
和記念館レポート』の連載を
はじめました。建設が進ん
でいく様子を写真でご紹介
しています。随時更新しま
すので、どうぞお楽しみに。



▲安全祈願祭の様子